

苦手を克服する
8つの練習法

苦手な作文が受験日までスラスラ書ける

入試作文の合格講座

ポイント= ①頭に浮かんだ抽象的なことを書く前に、目の前にあるものを描写することから始めよう。 ②作文の苦手な人はまず、自分の好きなことをテーマに書いてみよう。

1 目の前にあるものを
言葉にする練習

●……遠回りのようだが、
役立つ日常の描写……●

過去の体験や、自分の考えや思いは、すでに自分の頭の中にあるものだ。あるものだから、書けるはずと思うだろうが、これが難しい。難しくてなかなか書けないので、つい書くことがない、何も感じないと思ってしまうのだ。大丈夫。生きている限り書くことは山ほどあるんだ。

でも、頭にあることを書く前に、まず、目の前にあるものや景色を、描写してみよう。

そんなもの受験に役に立つのかって？ 遠回りのようだが、実に役に立つのだ。実践は後で紹介するので、取りあえずやってみよう。

コツは、なるべく一つのものに絞って、色、形、様子、動きなど、目に留まったワンポイントを書くこと。(五十文字から百文字位で挑戦してみよう。慣れたら字数を増やしていこう。)

●……書く暇のないときは
口の中で言ってみる……●

描写の練習はどこでもできる。机の上の鉛筆、庭の花、登校中の景色、学校での友達の様子、授業風景、先生の今日の服装、母の小言などなど面白そうなものはいくらでもある。一つの物から景色へ、そして動きのあるものへと進めていくとよい。書く暇のないときは、ブツブツ口の中でつぶやいてみるとよい。

「描写力」は入試作文のどの部分で役立つのか？

ズバリいえば、水、空、川、山、海、自然、好きな花、好きな季節、今までの印象深い情景を具体的に書けば大いに役立つ。また、五感に訴えるのもポイント。色、形、音など、五感に訴える書き方をしているか？「かわいいイルカ」などと漠然と印象を書くまえに、「小さな、青い」「四角い世界」「つぶらな黒いひとみ」などと色、形などをきちんと書こう。

【模範例文】

今、目の前にパソコン画面がある。その四角い世界の片隅に、小さな青いイルカがいる。つぶらな黒いひとみを、ときどきつぶつぶと見せる。

2 「好き」の穴から
作文の世界をのぞく練習

作文がどうも苦手、考えることが好きではないという人でも、自分の好きなことについてなら、語れるという人は多い。ならばこれを使わない手はない。

「好き」の穴から作文の世界をのぞいてみよう。

好きな音楽、好きなスポーツ、好きな人物、好きな色、好きなこと(趣味)、好きな本、好きな言葉、好きな科目、好きな季節、好きな友達(親友)、好きな花、好きな時間、好きな場所、……好きなものについて、いくつか書いておこう。

●……では、好きなことなら
何を書いてもいいのか？……●

好きなことなら何を書いてもいい。しかし、例えば「好きな時間は？」の課題では、テレビ、ゲーム、マンガなどは避けられたほうが無難だ。なぜなら一般的にはマイナスに捉えられているし、それを前向きに書くのは技術がいるからだ。部活の時間、友達といふ時間、家族との団らん、音楽を聴く、楽器を弾く、絵を書く、物を作るなどの趣味の時間などが書きや

すい。いずれにせよ、好きなもの、好きなことをたくさん考えておけば、「時間」や「場所」の課題にも応用できる。

【模範例文】

私の好きな場所は、家のリビングにあるピアノの前のイスだ。そこは私の指定席である。そこに座っていると……(後はピアノのことを書けばよい。)

①好きなものに関する体験 ②好きな理由や感想をまとめるとよい。公立志望の場合は二百字で、私立志望の場合は六百字で書いて練習しておこう。

【出題例】

私の好きな時間、私の好きな場所、私の好きな言葉のうち一つを選び、書きなさい。(山口県・私立高校)

あなたの好きなひと時を取り上げ、その過ごし方や、そこで考えた感じたりすることについて、三百字以上四百字以内で書きなさい。(愛媛県)

私の好きな花について書きなさい。(福井県)